

2024年末 南アルプス『聖岳』（3013m）山行記録



【日程】

2024年12月28日（土）～12月30日（月） 山行2泊3日

【参加者】

中山、土橋（報告者）

【装備】

《厳冬期テント泊登山装備一式》

4人用テント、スコップ、厳冬用ガス（ラージ×1、レギュラー×2）

水作り用1Lアルミ鍋

ピッケル（各1本）、アイゼン、ワカン、その他個人装備

《以下持参するが使用せず》

登攀具、軽量ハーネス、ロープ（8mm×30m）、デジタル簡易無線

《その他》

沼平ゲート～聖沢登山口（14km）の舗装路用に自転車各1台（予備チューブ2）

【記録】

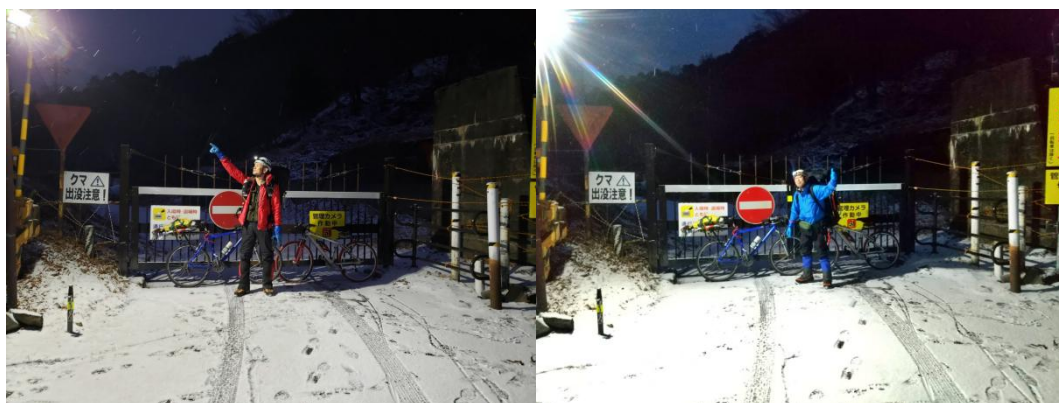
2024年の年末山行は、当初は赤石～荒川周回縦走（3泊4日）を計画していました。しかし2週間前から中山さんがインフルで1週間ダウンしてしまい、体力面を考慮して、計画を聖岳単峰のピストン2泊3日に変更しました。

今年は12月に入ってから繰り返し寒波が来ており、雪の少ない南アルプスとは言え、例年よりは多いだろうことは想定はしており、一応2泊3日の計画でしたが、2日で山頂に届かないことも想定して、3泊4日はできる準備をして入山しました。

また、聖沢登山口までの林道歩き14km（当初予定では樺島までの16km）の移動に自転車を使うべく20年使われていない嫁さんの自転車の整備するなど準備して臨みました。

■12月27日（金） 16時北九州発 新東名「島田金谷 IC」まで高速走行
いつも通り交代で睡眠を取りながら順調に高速移動。

■12月28日（土） くもり 未明と午後 一時雪
3時ごろ島田市街で朝食 → 6時畑薙ダム湖「沼平ゲート」駐車
沼平ゲート（標高 950）6時 35 分発 →（自転車移動）→
聖沢登山口（標高 1150）8時 30 分着 8時 45 分発
ジャンクションピーク（標高 2260）14時 40 分
泊地（標高 2370）15時 30 分着



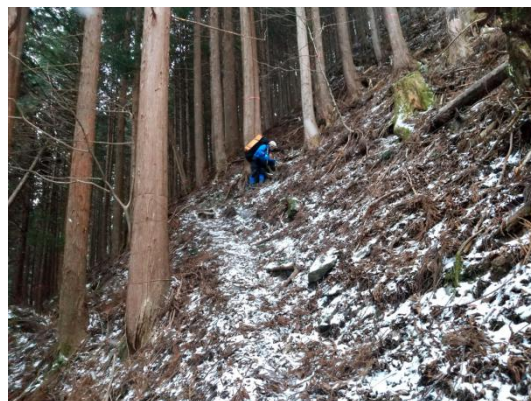
沼平ゲートにて（左：土橋 右：中山）

予定どおり明るくなるころに沼平ゲートに到着。隣に駐車している先着のパーティーも聖岳とのこと。到着前から降雪があり、林道には薄く雪が積もっている。30分ほどで準備し出発。自転車が滑らないか微かな積雪でしたが、恐るおそる乗ってみると問題なく乗れました。良かった。

4 kmほど走行したところで先行パーティーを追い抜くが、その先の橋で後輪がパンク。パンクへの対処自体は慣れているので10分ほどで修理完了しましたが、持ってきた予備チューブは残り1本。許されるパンクはあと1回だけなので、路上の落石（角が鋭利なものが多い）を慎重に避けながら2時間かけて聖沢登山口に到着しました。自転車による時短効果は2時間程度ではありましたが、やはりラク。このラクさは下山時に特に効いてくることでしょう。



聖沢登山口



つづら折りを登っていく

人目につかないところに自転車をデポし、いよいよ入山。暗い森の中のつづら折りを登り、

左側が開けて少しすると東尾根に乗る分岐に出会う。聖平方面へ向かう登山者が入らないようロープが張られているが、夏でも登られているようで明瞭な踏み跡がある。

分岐からジャンクションピークまでの標高差約 1000m はかなりの急登。滑落のおそれのあるようなポイントもあるが、フィックスロープにも助けられながら登っていく。



フィックスロープの助けを借りて通過



テープを追いつながら登る

標高 1500m 辺りからは積雪が踏み跡を隠しているが、ピンクテープが良い頻度でつけてある。雪の下は土が凍結しており、キックステップを受け付けない。早々にアイゼンを履く。

出合所小屋跡を過ぎると、急登&積雪に多数の倒木がプラスされる。倒木と地形とテープを観察しながら、なるべく効率の良いルートを考えながらの膝下ラッセルが続く。想定では白蓬の頭で幕営だったが、標高 2000m を越えて明らかにペースダウンし、時間的にも頃合いで、適地を見つけて行動終了としました。

■12月29日(日) くもり 時々 小雪
6時15分発 → 白蓬の頭(標高2632) 9時10分 →
森林限界(標高2630) 10時15分 →
撤退(標高2760) 11時45分着 12時00分発
泊地(標高2370) 14時06分着

夜は上空で風が唸っていましたが、樹林帯の泊地ではテントが揺れることもなく、たっぷり眠り、初日の寝不足をすっかり解消することができました。

登頂を目指す2日目、白蓬の頭まではラッセルだろうが、森林限界を越えれば歩きやすくなると想定。登頂後明るいうちに樹林帯に戻る時間を検討して6時出発としました。



2日目・進むほどに雪深く



4人パーティーと合流

出発後すぐワカン膝上ラッセルとなり、進むほどに沈みが大きくなる。2 時間ほどで後続の 4 人パーティーと合流し、協調ラッセル体制となる。休めるようになり助かるが、ラッセルのスピードは結局は先頭の 1 人にかかってしまうので、スピード自体が上がる訳ではない。

想定 2 時間だった白蓬の頭で 1 時間遅れ、森林限界を越えてもラッセルは終わらず、東聖岳の手前で 4 人パーティーはこの日は撤退としていました。



2 日目は東聖岳手前で今日は撤退

ここで我々はどうするかを 2 人で話し、我々も撤退し、明日の登頂を目指すことにしました。

下山しながら電波を拾い、明日の天気を確認したところ、明日日中は登山日和が続き、明後日は天気が崩れるとのこと。明日夜明けとともに核心部に入り登頂、可能なら明日のうちに下山する予定としました。

■12 月 30 日（月）

快晴

2 時 50 分発 → 白蓬の頭（標高 2632）4 時 10 分 →
森林限界（標高 2630）5 時 10 分 →
前日撤退地点（標高 2760）6 時 25 分 →
東聖岳（標高 2800）6 時 35 分 → 奥聖岳（標高 2979）8 時 20 分
→ 聖岳（前聖岳 3013）8 時 50 分着 8 時 55 分発 →
泊地（標高 2370）12 時 35 分着～大休止・撤収～14 時 00 分発 →
聖沢登山口 16 時 45 分着 17 時 05 分発 →
沼平ゲート 18 時 55 分着
22 時ごろ 島田市街のスーパー銭湯「蓬莱の湯」 ￥1000
23 時ごろ 島田市街のファミレスにて夕食

夜は冷えしました。今まで年末山行でも寒くて眠れないことはありませんでしたが、この夜はなかなか寝付けませんでした。中山さんも過去イチ寒い夜だったとのこと。たまらず湯を沸かして生姜湯を飲み、使い捨てカイロを腹に貼ってようやく熟睡できました。

1 時起床、3 時出発。夜明けとの時間調整で、昨日作った高速道路をスローペースで登っていく。森林限界を超えて黎明に富士が綺麗に浮かぶ。



高速道路を時間調整しながら登る



森林限界を超えて黎明に浮かぶ富士

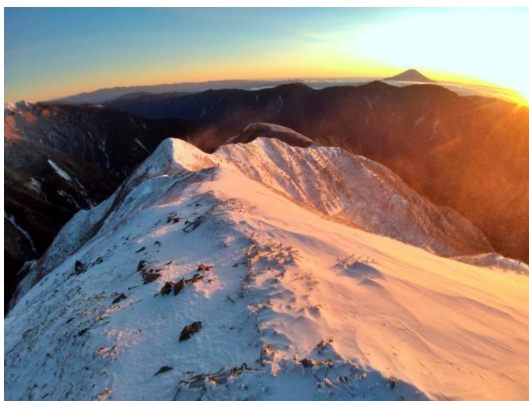


ご来光



赤く染まる赤石岳

前日撤退地点ではヘッドライト不要となり、ご来光と赤く染まる山々を撮りながら東聖岳からの尾根を辿る。右は木の枝、左は雪の斜面で滑落のおそれは無い。



赤く染まる東尾根



小休止

奥聖岳手前の核心部もほどよくハイマツや岩が出ており、雪もほどよい締まりで容易に登れる。途中頭がクラクラして登れなくなり、狭いスペースで5分ほど休憩する。5月の北鎌沢で出た症状と一緒に。今回は体力も体調も一切問題ないはずだが・・・再発症してみても、急にその原因が“過換気”じゃないかとひらめいた。となれば無駄に呼吸量を多くするのをやめたところあっさり回復して順調に奥聖岳に登頂を果たしました。



雪稜を登る



核心部



奥聖岳に登頂



前聖岳への広い稜線を歩く

この日は9時まで行動してその時点で引き返す取り決めでしたが、まだ8時20分。そのまま聖岳最高峰の前聖岳へと歩いてゆく。途中で抜かれたソコ登山者とすれ違う際に「前聖の山頂だけ爆風でした。気を付けて。」とのこと。歩いていくと徐々に北西風が強くなり、山頂では話のと通りの爆風。身体をナナメにしないと全く歩けない。山頂滞在5分でしたが、どうにか相互に記念写真を撮り、握手をして登頂を喜び、サッサと奥聖岳に取って返しました。



聖岳（前聖岳）登頂（左：中山 右：土橋）



奥聖岳からの下山



後続とすれ違う

下山時は昨日の4人パーティーを含む7人とすれ違いました。時折景色を写真に収めながらまっすぐ泊地へ。途中また電波を拾いつつ天気を確認。中山さんは山頂部で強風に吹かれて大分消耗したとのこと。明日の天気は下り坂で、今日のうちに下山した方が自転車も含めて快適に動けそうでしたが、判断は中山さんに委ねました。



泊地



聖沢登山口に下山（あとは自転車 14 km）

泊地で大休止したところ大分回復したとのことで、テントを撤収し14時下山開始。暗くなる前に登山口、19時ごろ沼平ゲートに帰還しました。（結果的には翌日林道に雨は降らなかったようですが。）

荷物と自転車を再び車に積み込み出発。当然近くの温泉「白樺荘」の立ち寄り入浴は終了しています。島田金谷 IC 近くのスーパー銭湯が夜24時まで営業していて、朝1時起床の強烈な眠気にうめき声を上げながら2時間半の運転で風呂へ。風呂に入ると気分もスッキリして次は定番のファミレス。肉と野菜と美味しい白飯と炭酸飲料をたらふく食って帰途へつきました。

■12月31日（火） 11時すぎ 北九州着

最初の運転を中山さんがしてくれてすぐに眠りに落ちる。その後は2時間交代で運転しながら順調に帰ってきました。

【感想】

4年前に槍に跳ね返されて以来、中山さんと私の年末山行は、コンディションのいい場所・天気の良い日を選んで入山しており、その後登頂した北岳、塩見岳、槍ヶ岳のいずれも2日目に登頂を果たしています。

今回も同様に入山しましたが、積雪が近年では多く、全くのトレース無しからの入山になり、初めて3日かけての3000m峰登頂となりました。たった一つの山頂を踏むのに3日かけたことは初めてで、中山さんも「体力的なきつさで言えば今までで一番」と言われるとおり、達成感のある山行でした。

全てのトレースを自分たちで付けた訳ではなく、同じ日程で入山した他の登山者との協力もあった中での登頂でしたが、道を作りながらの登山は非常に楽しかったです。また、結果的に視界の悪い2日目ではなく、強風ながらもスッキリとした快晴の3日目に登頂できたことで、きれいなご来光と富士山、周囲の山々を見ることもでき、素晴らしい年末山行になりました。

また次の年末も、達成感と良い景色の求めて、どこかの山頂を目指したいと思いますので引き続きご助言等よろしくお願いします。

